

【リニューアル奮闘記 教員編】 8月5日実施

企画趣旨説明ならびに第2期リニューアルの概要説明

市井 吉興

企画趣旨説明

皆様、おはようございます。立命館大学国際平和ミュージアム副館長の市井吉興と申します。それでは、私から今日の企画について簡単にお話しさせていただいて、その後、私から今回のリニューアルについてのお話をさせていただきます。

今、画面共有で青いスライドが映っていますが、今月、8月のテーマは、「国際平和ミュージアム・リニューアルオープンに向けて：リニューアルで平和ミュージアムはどうなるのか？ どうなりたいのか？」というテーマで2回開催させていただきます。

今回は「国際平和ミュージアム・リニューアル奮闘記 教員編」ということで、「開館30周年のミュージアムの歩みと第2期リニューアルの意義と展望」と題しまして、皆様にお話しさせていただければと思います。

改めまして、司会を務めますのは、立命館大学産業社会学部教員で、国際平和ミュージアム副館長の市井吉興と申します。今日はどうぞ最後まで皆様、よろしく願いいたします。

今日の登壇者ですが、先ほど事務局からご紹介

がありましたが、今日、お話ししていただく順番確認を兼ねて、再度、ご紹介させていただきます。

まずは、名誉館長の安齋育郎先生からお話をさせていただきます。特に安齋先生はミュージアム立ち上げのときから関わっていらっしゃいますので、この約30年にわたるミュージアムの歴史をざっと振り返りながら、今回のリニューアルへの期待などをお話ししていただければなと思っております。

続きまして、2番目に登場していただくのは細谷亨先生です。細谷先生は現在、国際平和ミュージアム副館長をされておまして、第2期リニューアルにおいては、テーマ展示や年表展示のほうで専門的な見地からいろいろとアドバイスを賜り、議論を活発なものにさせていただきました。特に先生が関わったところについて、いろいろとご苦労した点や、こういったところがうまくいったのではないかということをお話ししていただければいいかなと思っています。

最後は、現館長の君島東彦先生のほうから、これからのミュージアムの展望、つまりリニューアルの後、どういうふうになっていきたいのかというところを、夢と希望と未来を高らかに語っていただければいいかなと思っております。

というわけで皆様、まずは私のほうから第2期リニューアルについて簡単にご説明したいと思います。

第2期リニューアルの概要説明

あまり時間も取れませんので、手短かにリニューアルがどのように実施されてきたのか、その背景を紹介させていただきます。

まずミュージアムは1992年に開館します。1992年といいますと、「戦後50年」という節目を前にしてミュージアムは開館しました。

さて、ミュージアムが開館した1990年代というのは、どういう時代だったのでしょうか。もしかしたら、今日の企画に参加されている方で、「まだ生まれていないよ」という方もいらっしゃるかと思います。やはり、大きな出来事としましては、東西冷戦が終結し、情報技術の発展を背景に市場経済のグ

ローバル化が進展していきました。その中で貧困問題や経済格差が拡大し、新たな国際問題や紛争が顕在化していく時代でした。

また、このミュージアムができる背景には、市民によって1981年から開催されていた「平和のための京都の戦争展」というものがあります。また、その開催と運営を支えた「中野基金」のレガシーを継承する、こういったことも私たちのミュージアムが開館していくことの背景にありました。

今回、第2期リニューアルと申し上げていますので、第2期があれば第1期があったというわけですね。その第1期のリニューアルというのが2005年に行われました。その背景といたしましては、「立命館憲章」に記される「アジア太平洋地域に位置する日本の学園として歴史を誠実に見つめ、国際相互理解を通じた多文化共生を目指す」という理念を展示や施設運営に反映させるというのが第1期リニューアルでした。

そこからしばらく時間がたちまして、第2期リニューアルはいつから検討されたのかということについて、お話ししたいと思います。第1期リニューアルは、先ほど申し上げましたように、2005年です。そこから10年後、2015年度からミュージアムの執行部を中心に次のリニューアルに向けた検討が開始されました。

第1期リニューアル以降の情勢の変化、ということがあったのか。ここだけでもかなりいろいろなことがありましたので、事細かにしゃべっていくと、それだけでこの企画が私の独演会で終わってしまいますので、ざっと流します。やはり、グローバル化と情報通信技術がさらなる進展を見せ、世界情勢は大きく変動していきました。その中で様々な紛争やテロが勃発し、世界の分断化が加速化していったのではないかなと。

また国内では、2006年9月の第1次安倍晋三内閣発足頃から新憲法制定・憲法改定・憲法解釈の変更の動きが見られ、また2011年3月に発生した東日本大震災と福島原発事故がありました。2014年には集団的自衛権の行使容認などというように、まさに戦後70年を迎えるなかで、平和をめぐる情勢

は混迷を極めていったと思われまふ。皆さんにもそういう記憶が多分にあるかと思われまふ。

こういった情勢の変化を踏まえて、リニューアルをどのように進めていくのかといったときに、ミュージアム執行部を中心に進められてきたリニューアルの議論を全学的な議論にしていく動きが、2018年度より始まらまふ。

全学で議論していくにあたって、これまでのミュージアムが築き上げてきたレガシーと情勢を反映して、どのようにしてリニューアルをしていくのかとなったときに、R2020に続く学園ビジョン「R2030 立命館大学チャレンジデザイン」を背景にリニューアルを考へていこうとなりまふ。そういった流れのなかで強調されていくのが、国連本部において2015年9月になされた、いわゆるSDGsになっていくわけです。

このSDGsに関しては、ここでは細かい話はしませんが、「2030年までにあらゆる形態の貧困に終止符を打つ」という高い目標を掲げ、その具体化に向けて様々なアクターが協力して多種多様な行動を起こし、問題解決に向かうものとされていまふ。まさにこういったメッセージ、理念、方向性というものは、これまでの立命館大学国際平和ミュージアムが築き上げてきたレガシー、そういったものをさらに強化していく、そういったものとしてこれをリニューアルの基軸に置こうとしていまふ。

そういったことを踏まえて、リニューアルのコンセプトというのは、①戦争の記憶を共有するミュージアム、②平和創造の場となるミュージアム、③平和創造を支える調査研究活動の拠点となるミュージアムを目指す、この3つのコンセプトを基にリニューアルを具体化していまふ。

また、リニューアルの展示の方向性としましては、①問題意識を喚起する展示、つまり展示資料を通じて来館者に「なぜ」という問いを喚起し、事後学習やワークにより来館者の主体的な学習につながる展示を目指しまふ。

2つ目が歴史叙述の発想の見直し、つまり「戦争」という事象を多角的に理解し、現代に向けた課題を把握することができる展示を目指していまふ。

さらに、今述べたことをもう少し詳しくというか、補足しながら述べてまふ。人間が何を迫られれば生命や暮らしを脅かされることにつながるのか。そのなかで個人はどのような選択をしたのかを伝えることで、現在を生きる来館者が歴史と現在の中に存在する多様な暴力の形態に意識を向け、それらを克服するための多様な選択の可能性を開くことを目指しまふ。それにより、来館者が戦争の背景や構造への学習を深めるとともに、これらを自らにつながる課題として受け止めることを促していくといったことを念頭に置いた展示を試みまふ。

以上のように、簡潔ではございまふが、第2期リニューアルの概要のご紹介とさせていただきたいと思いまふ。

それでは、先ほども申し上げまふが、改めてそれぞれの先生方のご講演のポイントを再度確認させていただきます。

安齋先生には、第2期リニューアルを迎えて思ふこと。細谷先生からは、第2期リニューアル奮闘記・教員編。君島館長からは、平和ミュージアムはこれからどうなりたいたいのかという、この3つのテーマでお話をしていただきたいと思いまふ。質疑応答についてですが、お話ごとではなくて、全体が終わってから時間を取りたいと思いまふ。皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。それでは、安齋先生、ご準備をよろしくお願ひいたします。